

◆ 消化器内科

副院長 藤本貴久 ・ 医 長 築村哲人

消化器内科の常勤医師は2名であったが、外科医師、内科医師による援助を受けた。内視鏡検査技師、看護師のマンパワー不足の問題もあり、消化器内科スタッフのマンパワー不足は解消できなかった。また、消化器内科外来は週4日であり、肝臓専門外来を熊本大学附属病院から派遣の非常勤医師が週1日担当した。

内視鏡検査実績

(件)

	2014年度	2015年度
上部消化管（処置、検診を含む）	1,648	1,546
下部消化管（処置を含む）	634	643
ERCP（処置を含む）	26	10
超音波内視鏡	0	0

内視鏡治療実績

(件)

	2014年度	2015年度
食道ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）	0	0
胃ポリペクトミー（EMRを含む）	7	2
大腸ポリペクトミー（EMRを含む）	43	58
胃ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）	3	6
大腸ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）	7	3
食道胃静脈瘤治療（EVL, EIS, APC）	4	1
内視鏡的止血術（上部）	2	2
内視鏡的止血術（下部）	0	3
異物除去	5	24
食道狭窄拡張術（ステント、バルーン）	5	5
PEG造設	11	14
PEG交換	42	30

内視鏡検査件数は前年度と比較して全体的に減少したが、下部消化管検査件数のみ増加した。また、内視鏡治療件数は前年度と比較して全体的に増加した。特に異物除去、大腸ポリペクトミー、胃ESD、内視鏡的止血術（下部）、PEG造設などが増加した。

主な消化器疾患入院症例数（主病名のみで重複なし）（例）

	2014年度	2015年度
逆流性食道炎	3	5
マロリー・ワイス症候群	2	1
食道・胃静脈瘤	4	3
食道異物	1	1
早期食道癌	1	0
進行食道癌（術後を含む）	5	6
食道弛緩症	1	0
胃ポリープ	5	2
胃腺腫	1	0
早期胃癌（外科転科症例を含む）	4	4
進行胃癌（外科転科症例を含む）	5	5
好酸球性胃炎	1	0
（出血性）胃十二指腸潰瘍	11	21
小腸間葉系腫瘍	1	0
大腸ポリープ	46	55
大腸LST	0	1
大腸癌（腺腫内癌、外科転科症例を含む）	4	18
大腸憩室出血	3	3
感染性腸炎（出血性腸炎を含む）	19	12
イレウス（サブイレウスを含む）	4	7
虚血性大腸炎	4	9
潰瘍性大腸炎	1	0
大腸憩室炎	6	4
偽膜性腸炎	2	1
上腸間膜動脈症候群	0	1
ノロウイルス感染症	1	0
直腸カルチノイド	0	1
肝障害	2	1
急性肝炎	4	1
自己免疫性肝炎	0	0
原発性胆汁性肝硬変	0	1
肝硬変（肝不全を含む）	4	1
肝性脳症	3	3
肝細胞癌	9	0
胆管細胞癌	1	0
肝膿瘍	2	0
胆石胆嚢炎（外科転科症例を含む）	6	3
総胆管結石（術後を含む）	13	7
急性胆管炎	3	3
胆管癌	5	2
胆嚢癌	2	1
急性膵炎（慢性膵炎急性増悪を含む）	5	8
膵臓癌	5	1
悪性リンパ腫	1	2
その他	82	133

入院症例の高齢化に伴い、何らかの合併症を有する症例が多かった。消化器癌は全般的に進行癌が多く、手術や化学療法可能な症例が減少し、緩和ケアを行う症例が増加した。消化管疾患においては、出血性胃・十二指腸潰瘍、大腸ポリープ、大腸癌などの症例が増加した。肝胆膵疾患においては、全般的に減少傾向を認めたが、急性膵炎症例は増加した。また、済生会熊本病院 腫瘍内科との連携により、大腸癌、膵臓癌、悪性リンパ腫などの化学療法も施行した。